

売上入力、仕入入力

売上入力では、得意先の売上を入力し、売上傳票を作成します。

仕入入力では、仕入先への仕入を入力し、売上傳票を作成します。

※新規登録・修正・削除、キー操作方法などは「伝票入力画面の基本操作」を参照してください。

1) 売上入力概要

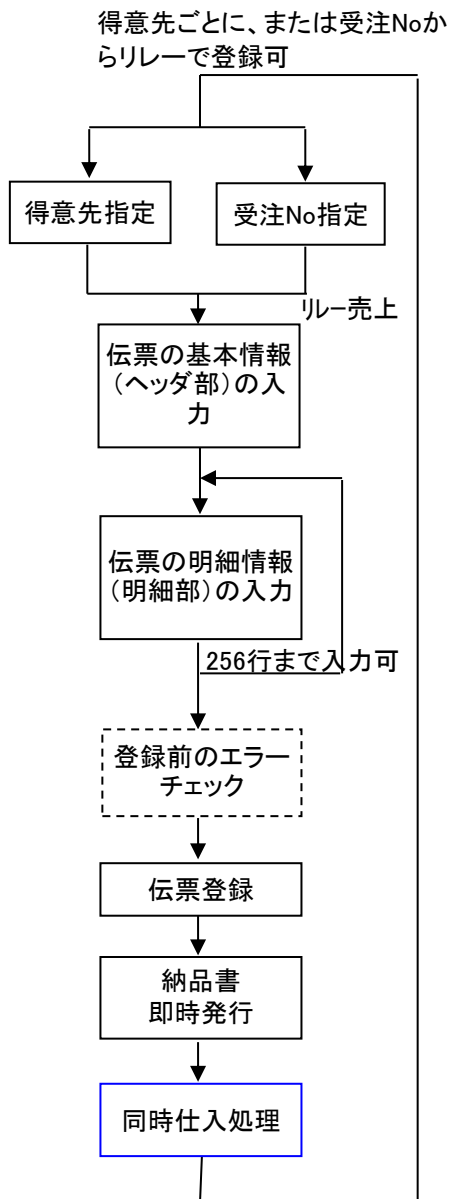
Point

・売上入力することにより、以下の業務が可能となります。

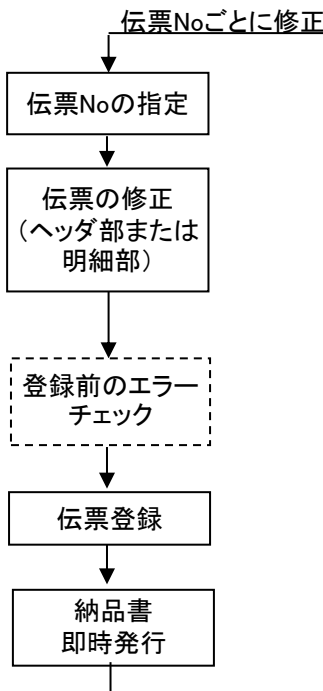
- ① 受注から売上へリレー入力することにより、分納も含め、受注残管理が行えるようになります。
- ② 売上計上した内容から納品書や請求書などの発行ができるようになります。
- ③ 売上明細表や分析表、各種一覧表などが作成でき、多角度からの売上集計や分析ができます。

・ 売上入力の操作の流れ

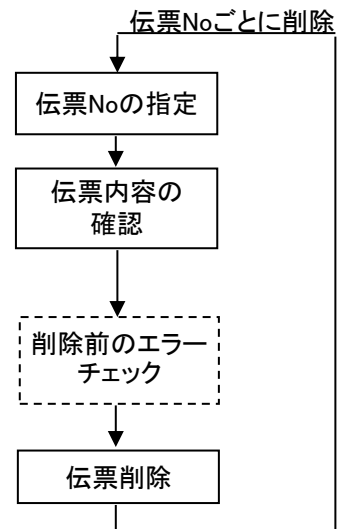
i) 新規登録



ii) 伝票修正



iii) 伝票削除



※売上傳票は伝票Noは重複可能ですので
同じ伝票Noが存在した場合は、伝票一覧が自動で表示されます。
表示された中から対象となる伝票を選択します。

※新規伝票は、受注Noを指定してのリレー売上計上が可能
可能です。リレーした場合のみ受注残の把握が行えます。

※同時仕入は新規の場合のみ。

2) 仕入入力概要

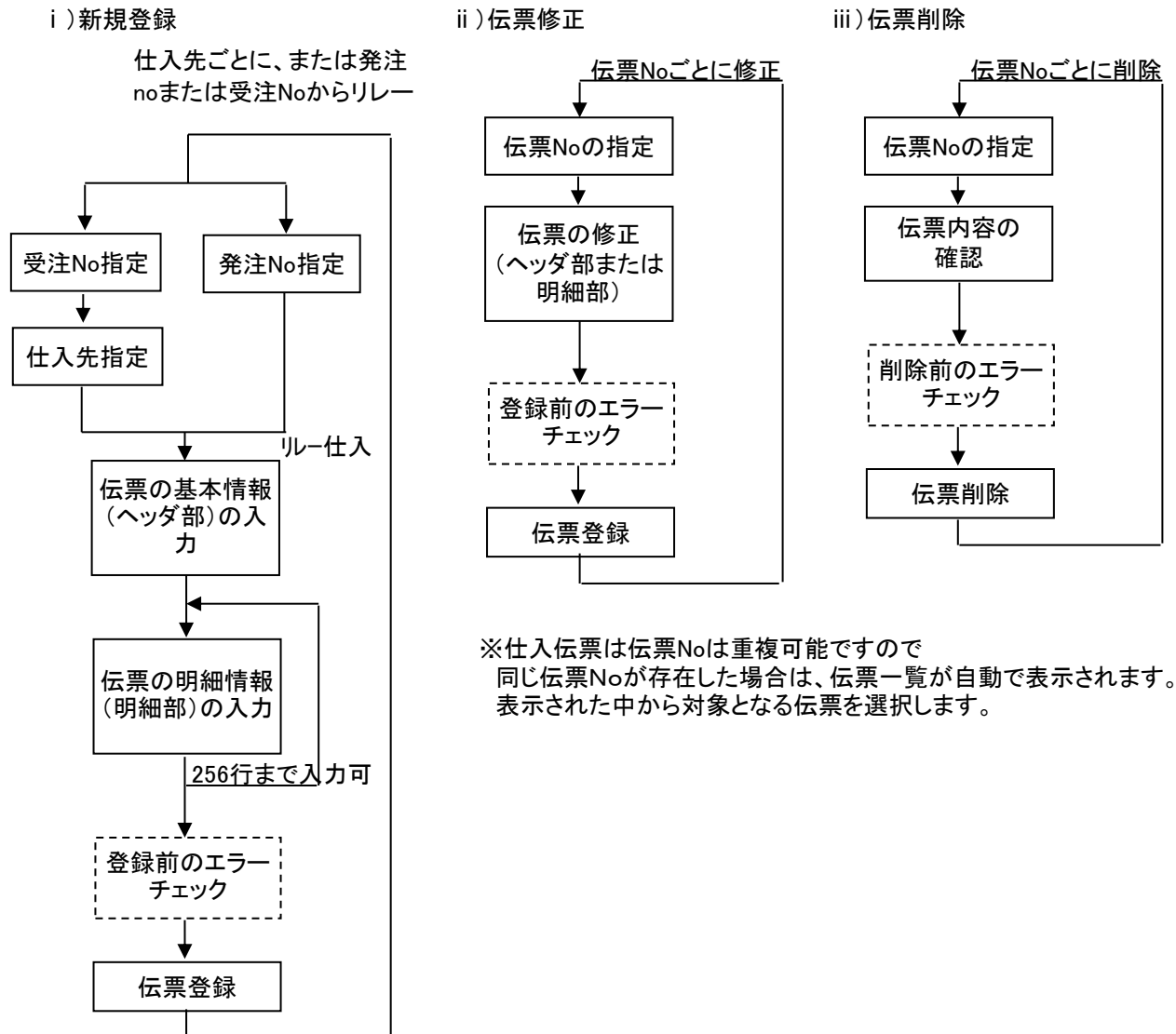
Point

- ・仕入入力することにより、以下の業務が可能となります。
 - ① 発注から仕入へリレー入力することにより、分納も含め、発注残管理が行えるようになります。
 - ② 仕入明細表が作成でき、多角度からの仕入集計や分析ができます。
 - ③ 同時仕入処理することで、発注伝票と同じ内容を複写し、仕入入力する工数を削減できます。
※ただし、同時仕入する場合には、伝票機能の売上の設定にて「同時仕入する」をONにする必要があります。
 - ④ 受注no指定で発注伝票をリレー入力することができ、その発注をリレーで仕入処理することで、受注と発注と仕入が1 受注noで紐付きます。結果、受注no別原価表にて、受注noごとの実際原価・粗利を集計することができます。

以下、未払金管理オプションを利用している場合

- ⑤ 伝区で「諸経費」を指定して仕入入力することにより、未払金の仕入伝票を作成することができます。
(諸経費伝区で指定できる商品をあらかじめ登録する必要があります)

・ 仕入入力の操作の流れ



※仕入伝票は伝票Noは重複可能ですので
同じ伝票Noが存在した場合は、伝票一覧が自動で表示されます。
表示された中から対象となる伝票を選択します。

※新規伝票は、発注Noを指定してのリレー売上計上が可能
可能です。リレーした場合のみ発注残の把握が行えます。

※以下の場合は、受注no指定で仕入入力できません。

- ・ 指定した受注noが1回でも発注でリレー処理されていたとき。
- ・ 指定した受注伝票が1回でも同時発注されていたとき。

※受注noは受注noごとの原価計算させたい場合に指定する。
同時仕入処理にて仕入伝票を開いた場合は、受注noは入力不要。

3) 画面上部処理ボタンの説明

画面上部のタイトルバーの横にある処理ボタンについて、「【6】伝票入力画面 共通基本操作」を参照してください。

売上入力には共通の処理ボタン以外に以下のボタンがあります。

項目名称	説明
得意先債権 情報を表示	得意先(請求先)への売掛債権の内訳画面を表示します。 詳しくは、「9) 与信チェック」をご覧ください。

仕入入力には共通の処理ボタン以外に以下のボタンがあります。

項目名称	説明
仕入先債務 情報を表示	仕入先への買掛債務の内訳画面を表示します。 基本的には受注入力画面の「得意先債権情報を表示」と同じです。

4) 基本情報(ヘッダ部) 項目の説明

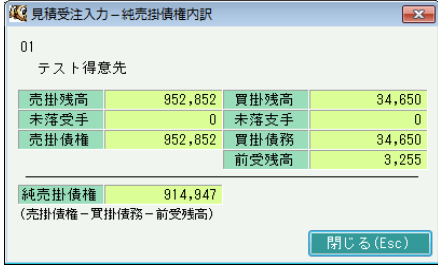
※売上、仕入ともに内容はほぼ同じです。以下、売上入力を例に説明します。

入力画面の上部にある基本情報をヘッダ物と呼びます。
ヘッダ部には、1伝票共通で設定できる項目が表示され、入力することができます。

・項目によっては、上部メニューの「その他」→「伝票設定」から表示/非表示を設定することができます。

非表示に設定した項目は画面上に表示されなくなりますが、値は設定されます。

項目名称	説明
伝票No	ほぼ全ての帳票類、伝票類に印字される伝票Noです。 採番管理登録の設定によっては重複することもあります。
見積No (仕入入力 なし)	受注からのリレーで売上する場合、見積Noを指定します。
受注No	受注からのリレーで売上する場合、受注Noを指定します。 伝票機能にて、受注Noを必須入力に設定することもできます。
得意先	売上先の得意先コードを指定します。マスタ検索からの選択も可能です。 (SPACEまたはF4キーで検索画面表示)
税処理区分	伝票の税処理区分(請求時外税/伝票毎外税など)が表示されます。 伝票の新規入力時は得意先の税処理区分を表示します。修正、削除時は以前に伝票が登録された時の税処理区分の値を表示します。 Point ・税処理区分は伝票の新規入力時のみ得意先マスタの値とは別の値を指定できます。 得意先指定後にEnterキーを押さずにマウスで税処理区分をクリックすることで得意先の税処理区分とは違う税処理区分で伝票を作成できます。 (得意先指定後にEnterキーを押して入力モードに入り基本情報が表示されている状態になった場合は「取消」ボタンを押下して得意先指定状態に戻ることによって税処理区分を指定できます。)
売上計上	チェックONの場合、売上計上され各売上帳票でも集計され、請求書の発行対象にもなります。 チェックOFFの場合は、売上計上の対象とはなりません。納品書の発行は可能です。 Point ・チェックOFFの場合、売上金額が計上されないため、各帳票ではチェックOFFの売上伝票は集計されません。(一部を除く) ・金額はまだ計上しないが納品書を出力する必要がある場合などにチェックOFFで登録します。
売上日	売上日(伝票日付)を入力します。 Point ・運用設定で指定した入力期間制限を超える日付を指定できません。 入力期間制限を超えている場合伝票登録時にエラーになります。

項目名称	説明
請求締日	<p>売上日を入力すると得意先マスタの登録内容から自動で設定されます。</p> <p>例)・月締めで締日が10と20の得意先の場合 売上日2006/05/05 ⇒ 締日 2006/05/10 売上日2006/05/16 ⇒ 締日 2006/05/20</p> <p>・都度請求の場合 売上日と同じ日が請求締日に設定されます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上を次々回請求締分にしたい場合などは締日を手入力で訂正します。ただし、得意先マスタに設定されている締日以外の日は指定できません。 ・都度請求の場合は、請求締日は自由に設定可能です。 ・直近の締めがマスタに指定された決算日の場合、その決算日が締日として表示されます。
純売掛債権/ 与信限度額 (仕入入力に 与信はなし)	<p>売上日時点での請求先ごとの純売掛債権の計算結果と、得意先マスタに設定されている与信限度額が表示されます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・純売掛債権、与信限度額共に請求先単位での管理になります。 ・純売掛債権横の「内訳」ボタンを押下することにより金額の内訳を確認することができます。  <p>ここで表示されている買掛残高などは得意先マスタの「相殺仕入先」に登録している仕入先の残高(または支払手形金額)になります。</p>
開始日	<p>レンタル期間の開始日を入力します。 開始日は必須入力のため、販売品だけでレンタル品が明細行にない場合でも入力してください。 納品日 ≤ 開始日 ≤ 返却日、終了日(どちらも指定なし可能) でなければいけません。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開始日～終了日が商品別期間単価の算出もとになる日数です。(仕入は関係なし) ・新規入力の場合、受注日に変更されると開始日が受注日同日で再設定されます。 ・開始日を変更すると貸出日数が変わるためレンタル品の期間単価が再計算されます。
終了日 (発注入力は なし)	<p>レンタル期間の終了日を入力します。入力必須ではありません。 指定すると商品別期間単価マスタの共通設定(商品コード指定なし)の期間と掛率が採用され期間名が自動表示されます。明細の期間も同じ期間が初期で自動セットされます。 終了日を指定すると返却日も同日が自動セットされますが、返却日を別日に変更は可能です。 開始日を変更すると貸出日数が変わるためレンタル品の期間単価が再計算されます。 発注入力の場合は、返却日=終了日として処理されるため終了日の入力項目はありません。 また、仕入管理には期間単価がありませんので、期間掛率の自動採用はありません。</p>
返却日	<p>レンタル期間の返却予定日を入力します。入力必須ではありません。 終了日を指定すると返却日に同日が自動セットされます。 返却日を返却予定日として、各貸出管理系の帳票や返却入力処理で採用されます。 指定した返却予定日は全明細共通設定として採用されます。 予定在庫では返却日(レンタル期間が終了)の翌日に商品が増加します。 返却日は、実在庫の増減には影響しません。 レンタル品は返却日で自動的に実在庫増するのではなく、返却入力することで実在庫が増加します。 ただし、予定在庫では返却日(レンタル期間が終了)の翌日に商品が増加します。</p>

項目名称	説明
返却区分	<p>リストから選択します。 選択した項目により、入出荷表で表示されるタブが分かれます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「直返」(得意先から仕入先へ直接返却する)を選択している場合に限り、売上同時仕入すると仕入伝票の返却区分にも「直返」が初期設定されます。
期間	<p>開始日と終了日が指定されると、その日数から商品別期間単価マスタの共通設定(商品コード指定なし)の期間が採用され表示されます。 手入力により変更することもできます。</p>
返却条件	<p>納品書に印字されます。手入力です。</p>
納品日	<p>商品の引渡日を入力します。 納品日は必須項目です。 開始日を変更すると納品日に開始日同日が設定されます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在庫計算では納品日で商品の在庫が減少します。 ・売上传票の納品日は入出荷表には表示されません。 入出荷表の配達予定に関係するものは受注伝票の納品日、納品区分です。
納品区分	<p>リストから選択します。 選択した項目により、入出荷表で表示されるタブが分かれます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「直送」(仕入先から得意先へ直接引き渡す)を選択している場合に限り、売上同時仕入すると仕入伝票の配達区分にも「直送」が初期設定されます。 ・「直送」(仕入先から得意先へ直接引き渡す)を選択している場合に限り、一括計上処理を実行した場合、関係する仕入伝票も仕入計上がONになります。
納品条件	<p>納品書に印字されます。手入力です。</p>
担当者	<p>営業担当者を指定します。 コードを直接手入力するか、SpaceまたはF4キーにてマスター一覧より選択できます。 初期表示される担当者は運用設定の登録内容により異なります。 当伝票がどの事業所の売上であるかは、担当者が所属する事業所で決定します。 事業所名は担当者横に表示されています。 事業所は伝票ごとに保持されていますので、登録後に担当者の所属する事業所が変更となってもデータにセットされた事業所は変更となりません。</p>
ご担当者名	<p>得意先の担当者名を入力します。</p>

項目名称	説明
納入先 コード 納入先名1 2、〒、 住所1、2、Tel	<p>納入先を指定する。 コード欄ではSpaceまたはF4キーにて納入先マスタ検索して選択可能です。 納入先名や住所などのその他項目は表示後に訂正可能です。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・納入先マスタにて、得意先とひもづけした納入先が1件以上登録されている場合、新規伝票入力では使用頻度の1番高い納入先が自動で初期表示されます。 ・納入先名や住所はマスタから選択せず直接入力することもできます。 ・マスタより選択後に納入先名や住所などを変更した場合、その内容は当伝票にのみ有効となります。マスタの内容は変更されません。 ・表示されている納入先コードを手入力で削除し、次項目へ進んだ場合、納入先情報を削除するかどうかの確認メッセージが表示されます。「はい」をクリックすると納入先名からTELまでがクリアされます。
地区	<p>地区を指定します。地区で集計できる帳票もあります。 コードを直接手入力するか、SpaceまたはF4キーにてマスター一覧より選択できます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得意先マスタで地区を設定していると新規伝票入力時にその値が初期表示されます。(受注リレー売上の場合、受注伝票の内容が初期表示されます。)
先方注文No (仕入入力 なし)	<p>得意先指定の注文Noを入力します。 受注リレー売上の場合、受注伝票の内容が初期表示されます。</p>
件名	<p>納品書などに印字する件名を入力します。 受注リレー売上の場合、受注伝票の内容が初期表示されます。</p>
出荷検品 (仕入入力 は無し)	<p>ハンディ連携オプション利用時のみ表示されます。 初期表示は「未」。検品が必要な全ての明細行が検品済みになると自動的に「済」と表示されます。手入力での変更はできません。</p>
摘要 コード 摘要名1,2	<p>摘要を指定します。 コード欄ではSpaceまたはF4キーにて摘要マスタから選択することができます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摘要コードを入力せずに摘要名1、2に直接入力することもできます。 ・マスタより選択後に摘要名1、2を変更した場合、その内容は当伝票にのみ有効となります。マスタの内容は変更されません。
メモ入力 (ボタン)	<p>伝票ごとのメモを入力することができます。 ボタン押下にてメモ入力画面が開きます。</p> <p>メモの入力がある場合、ボタンがオレンジ色で表示され、ボタンの横に内容が表示されます。</p>
現掛区分	<p>入力中の伝票の現掛区分(現金売/掛売)を指定します。 新規入力時は得意先の現掛区分が初期表示されます。 (受注リレー売上の場合、受注伝票の内容が初期表示されます。) 現掛区分を変更すると明細部の伝区も現掛区分に合わせて変更されます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税処理区分が「請求時外税」の伝票の場合、現金は選択できません。 (現金売の場合、その場で精算するので請求時外税というものはないため)

項目名称	説明
取引方法	支払条件など、取引方法を入力します。 入力した内容は伝票に印字されます。
支払方法 (仕入力は無し)	補助分類登録画面の支払方法登録で指定した内容から選択できます。 選択した内容は伝票に印字されます。
使用目的 (仕入力は無し)	補助分類登録画面の使用目的登録で指定した内容から選択できます。 売上分析表では使用目的別の集計が可能となります。
ファイル (売上入力は無し)	伝票に関連するファイルを指定できます。参照ボタンからファイルを指定します。 表示されたファイルのパスをクリックするとファイルを表示できます。 ファイルのパスを削除したい場合はクリアボタンをクリックします。

5) 明細情報(明細部) 項目の説明

※売上、仕入ともに内容はほぼ同じです。以下、売上入力を例に説明します。

入力画面の下部にある明細情報欄の商品が指定できる箇所を明細部と呼びます。明細部には、受注内容を商品ごとに1伝票256行まで入力することができます。各行を入力すると、画面下部の計行に各項目の総計が自動計算され表示されます。

行No	削除	伝区	商品コード	管理番号	倉庫	種別	売上原価	売上原価	備考1	備考2	仕入先	セット	期間	マウ	最終返却日
		出荷	品名		売上数量	単位	売上原価	売上金額				構成数	種区分	種品済	返却済数量
1	<input type="checkbox"/>	掛売上	0100401		下段2700×2700mm 2段	本社倉庫	1/30	80,000	180,000				2日	<input type="checkbox"/>	
		やぐら					2	130,000	260,000			1	課売	<input type="checkbox"/>	0
2	<input type="checkbox"/>	掛売上	0101204			本社倉庫	1/30	400	1,200				2日	<input type="checkbox"/>	
		日本国旗					3	1,250	3,750			1	課売	<input type="checkbox"/>	0
*	<input type="checkbox"/>	掛売上						0	0					<input type="checkbox"/>	0
II															
レントータル計		販売計	その他計	粗利	率	金額計	外税計	合計金額	総重量						
283,750		0	0	82,550	31%	283,750	21,100	284,850	0 Kg						

明細部

計行

項目名称	説明
行No	先頭から自動で行Noが付番されます。 256行まで入力可能です。 「*」マークの行は、まだ何も入力されていない行です。
削除 (ボタン)	入力した行を削除する場合、この削除欄にマウスでチェックを入れます。 (チェックを入れると行全体がグレー背景になります) その状態で伝票登録するとチェックを入れた行が削除されます。 セット品(構成品)の一部が返却済みの場合、セット品も構成品も削除できません。 先に返却入力にて返却の取消を行ってください。
伝区 (伝票区分)	以下の伝区より選択します。 伝区は現掛区分の設定によって現金/掛に変わります。 以下では掛売の場合で説明します。現金の場合は読み替えてください。 現金の場合は読み替えてください。(掛受注→現受注など) <ul style="list-style-type: none"> ・掛売上 ... 通常販売する商品を指定する場合に選択します。 倉庫を指定している場合、在庫数を減少させます。 ・掛売返 ... 商品の返品を指定する場合に選択します。 数量を入力すると自動でマイナス表示になります。 倉庫を指定している場合、在庫数を増加させます。 ・掛値引 ... 商品ごとの値引きを入力する場合に選択します。 納期、売上原価は入力できません。 単価を入力すると自動でマイナス表示になります。 在庫の増減には関係ありませんが在庫管理が必要な商品や 倉庫別移動平均原価を採用している場合は倉庫の指定が必要です。 明細合計に対しての値引きを入力する場合は値引用商品を 予め登録しておき、それを使用します。 ・掛経費 ... 経費を入力する場合に選択します。 納期、受注原価、倉庫は入力できません。 諸経費を入力する場合、「送料」などの商品を商品マスタに登録しておき 商品に「送料」を指定します。 諸経費で入力された商品は在庫増減されません。(倉庫選択不可) ・摘要 ... 摘要行を入力する場合に選択します。 品名、品名2と備考のみ入力できます。 入力した品名などは納品書や請求書に印字されます。 品名欄でF4キー押下にて、摘要マスタから 選択できます。その場合、品名に摘要名が設定されます。

項目名称	説明
	<p>・構成 (売上入力のみのみ) …… 掛売上の行でセット品を指定すると、構成品登録している構成品が自動的に表示されます。行の削除/挿入を行ったり、直下行の伝区を「構成」に変更することで今回取引分のみ構成品を変更することもできます。構成品の金額、原価は指定できません。</p> <p>未払金管理オプションを利用している場合のみ。仕入入力のみ</p> <p>・諸経費 …… 諸経費の未払金を仕入計上する場合に選択します。伝区に諸経費を指定した場合、その行には諸経費の商品のみ指定できます。(商品登録で諸経費区分がチェックONの商品) 諸経費行の仕入金額は買掛金ではなく未払金で計上されます。現掛区分が「掛」の仕入伝票のみ「諸経費」伝区を指定できます。</p>
出荷	<p>受注からのリレー売上時に選択できます。入力した売上数量と受注残数の関係から以下のように自動的に変更されますがクリックすることにより手動変更することもできます。</p> <p>・「一部」 …… 売上数 < 受注残数のような売上数を入力した場合に表示されます。 ※売上時に数量「0」で計上する場合も「一部」と表示されるの注意。</p> <p>・「完納」 …… 売上数 ≥ 受注残数のような売上数を入力した場合に表示されます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上しない行は数量0とするのではなく、行を削除ボタンで削除します。(行を削除すると受注伝票では「未納」のままになります。) ・受注数量より少ない売上数量で全数出荷扱いにしたい場合は出荷をクリックして「完納」に変更することができます。 ・一部は受注残の扱いとなります。 ・売上の出荷状況は、印字箇所はありませんが受注の出荷状況に影響します。
商品コード	<p>売上した商品コードを入力します。伝区が「摘要」の場合以外は入力必須です。コードを直接手入力するか、SpaceまたはF4キーにてマスター一覧より選択することもできます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品コードを入力すると、商品マスタに設定されている「倉庫」「品名」「品名2」「入数」「単位」「仕入先」「商品種別」が初期設定されます。「明細納期」はヘッダに指定されている納期が初期表示されます。 ・運用設定の登録内容によってはSpaceキーで商品参照すると伝票の得意先=商品マスタの得意先の商品を表示することができます。商品を主に決まった得意先に売り上げる場合に使用します。 ・売上入力ではセット品指定により構成品の同時出荷ができます。仕様の詳細はマニュアル補足資料の「セット品売上出荷」をご確認ください。
品名	<p>売上する商品名を入力します。商品コード選択時に商品マスタの商品名が初期表示されます。表示後の訂正も可能です。伝区が摘要の場合は任意文字列を入力します。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品名は空白でも伝票登録可能です。 ・変更した場合は当伝票にのみ有効です。商品マスタは変更されません。

項目名称	説明
品名2 (型番、規格)	<p>売上する商品名の補足情報を入力します。 商品コード選択時に商品マスタの品名2が初期表示されます。 表示後の訂正も可能です。 伝区が摘要の場合は任意文字列を入力します。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> 品名2は空白でも伝票登録可能です。 変更した場合は当伝票にのみ有効です。商品マスタは変更されません。 品名2のタイトル名称は運用設定にて変更できます。
倉庫	<p>売上する商品の出庫元倉庫を選択します。 伝票担当者が所属する事業所の倉庫を初期表示します。 SpaceまたはF4キーにて表示される倉庫参照から選択できます。</p> <p>また、F2キーにてその明細行の商品、倉庫で予定在庫一覧表が表示されます。 F3キーにてその明細行の商品、倉庫で商品予定表が表示されます。</p> <p>伝区が値引/経費/摘要以外は指定します。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品の在庫数管理は全て倉庫別に行っています。 在庫管理しない商品も倉庫を指定してください。 一部でも返却済みの場合、倉庫は変更できません。 <p>・通常は受注リレー売上した場合、受注の倉庫がそのまま売上の倉庫になり変更できませんが、運用設定で「伝票リレーで倉庫変更する」を設定している場合に限り売上入力 で倉庫を変更することができます。 ただし受注と売上の倉庫が異なる場合は(倉庫別) 予定在庫の正確な把握はできなくなり ます。</p>
売上数量	<p>売上数量を入力します。 また、F2キーにてその明細行の商品、倉庫で予定在庫一覧表が表示されます。 F3キーにてその明細行の商品、倉庫で商品予定表が表示されます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> 返却が発生している状態で売上数量を変更する場合は返却数量より小さい値は 指定できません。 数量の入力は必須ではありませんが、 在庫管理する場合は数量入力がないと在庫の増減はされません。 数量の少数以下桁数は、運用設定にて修正可能です。
種別	<p>商品マスタに設定している商品種別が初期表示されます。 表示後の変更も可能です。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> 選択変更した場合は当伝票にのみ有効です。商品マスタは変更されません。 種別によって初期設定される単価が変わります。 <ul style="list-style-type: none"> レンタル・・・商品マスタのレンタル単価が採用されます。 (どのレンタル単価が採用されるかは得意先マスタ「レンタル単価種類」の 設定によります) ただし、商品別期間単価を登録している場合は商品別期間単価が優先 されます。 販売・・・商品マスタの販売単価が採用されます。 (どの販売単価が採用されるかは得意先マスタ「販売単価種類」の 設定によります) ただし、納入先別数量単価や得意先別単価を登録している場合はそちらが 優先されます。 減損・・・商品マスタの減損単価が採用されます。 種別によって初期設定される原単価が変わります。 <ul style="list-style-type: none"> レンタル・・・商品マスタのレンタル単価(標準原価単価)が採用されます。 販売・・・商品マスタ「販売原価計算法」の設定にしたがって原価が設定されます。 減損・・・0が初期表示されます。

項目名称	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ・返却入力はレンタルの商品のみ行います。販売などの商品の返却入力は出来ません。 ・セット品の親レコードが「販売」「減損」の場合、子レコードも同じ種別が設定され変更できません。 ・セット品の親レコードが「レンタル」の場合、子レコードの種別は自由に設定できます。 <p>※ 仕入伝票では商品別期間単価は採用されません。レンタル期間によって単価が変わる場合は都度単価を入力してください。</p>
単位	<p>数量の単位を入力またはリストから選択します。 リストには単位マスタに登録されている内容が表示されます。 商品マスタの登録内容が初期表示されますが、変更できます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変更した場合は当伝票にのみ有効です。商品マスタは変更されません。
売上原単価	<p>売上原価の単価を入力します。 伝区が売上か返品のみ入力可能です。 入力内容にしたがって初期設定されますが手入力による訂正も可能です。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上原価計算法に倉庫別移動平均を指定している場合、「売上日」「倉庫」を変更したとき再設定されます。 最終仕入を指定している場合は「売上日」を変更したときに再設定されます。 ・運用設定で「受注原価を使用する」をONにしていると受注から原価が引き継がれます。 OFFの場合は売上傳票の新規入力時に計算されます。 ・種別によって初期設定される原単価が変わります。 レンタル・・・商品マスタのレンタル単価（標準原価単価）が採用されます。 販売・・・商品マスタ「販売原価計算法」の設定にしたがって原価が設定されます。 減損・・・0が初期表示されます。 ・伝区が「構成」の場合、原単価、原価は設定できません。
単価	<p>売上単価を入力します。伝区が摘要の場合は入力できません。 商品種別と得意先マスタの単価種類の設定に応じて初期表示される単価が決定します。</p> <p>SpaceまたはF4キーにて単価情報画面が表示されます。 単価情報画面には商品マスタとその他単価マスタに登録されている単価が表示されます。この一覧から単価を選択し直すこともできます。 得意先マスタに設定されている単価掛率も表示されます。掛率は変更できます。ただし、商品マスタの掛率要否が「不要」の場合、掛率は表示されません。</p> <p>商品種別によって単価情報画面は変わります。</p> <p>レンタルの場合 商品別期間単価マスタに登録されている期間がリストに表示されます。 採用単価＝基本単価×得意先掛率 です。</p> <div data-bbox="395 1818 874 1998"> </div> <p>商品別期間単価マスタが「期間単価」で登録されている場合</p>

項目名称

説明

商品別期間単価マスタが「期間掛け率」で登録されている場合

必要に応じて
 ①単価を選択する
 ②期間を変更する
 ③得意先掛率を変更する
 を行います。
 OKボタンをクリックすると明細行に

販売、減損の場合

商品マスタに登録されている単価および得意先別商品単価、数量別売上単価(登録している場合)が表示されます。

必要に応じて
 ①単価を選択する
 ②得意先掛率を変更する
 を行います。
 OKボタンをクリックすると明細行に採用単価が設定されます

該当する得意先と商品で数量別売上単価を登録している場合、数量別単価が表示されます。

Point

- ・単価の少数以下桁数は、運用設定で変更できます。
- ・伝区が「構成」の場合、単価、金額は設定できません。

F3キーにて売上単価履歴が表示されます。

初期表示では得意先・商品・種別が入力中の伝票と同じ受注、売上を表示しますが条件を変更して再検索できます。

「単価採用」ボタンをクリックすると選択中の行の単価が明細行に設定されます。

項目名称	説明
売上原価	<p>売上数量×売上原単価が表示されます。手入力も可能です。</p> <p>少数点以下の端数は、得意先マスタの金額端数区分の設定が採用されます。(切捨、切上、四捨五入)</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上金額と売上原価から伝票全体の粗利と粗利率が計算され、計行に表示されます。 ・伝区が「構成」の場合、原単価、原価は設定できません。
売上金額	<p>売上数量×単価の値が表示されます。マイナスの入力も可能です。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数量や単価を入力せずに売上金額のみの手入力も可能です。 ・伝区が「構成」の場合、単価、金額は設定できません。
備考	<p>明細行の備考として任意の文字列を入力できます。</p>
仕入先 (仕入入力 は無し)	<p>同時仕入する場合は仕入先を指定します。 商品マスタの仕入先が初期表示されます。 リレー売上の場合は受注で指定した仕入先が表示されます。 SpaceまたはF4キーにてマスター一覧より選択できます。</p> <p>新規伝票登録時に仕入先を指定しているとその仕入先に売上明細をコピーして仕入入力画面を表示します。(同時仕入入力)</p>
(備考の下の) 受注No 受注行No (売上入力 は無し)	<p>仕入伝票と紐付ける受注Noおよび受注行Noを指定します。 SpaceまたはF4キーにて受注明細検索画面より選択できます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘッダ部で受注Noを指定した場合、初期表示される明細には受注Noおよび受注行Noが初期表示されています。 明細行を追加した場合は追加した直前(上)の行の受注No、受注行Noが初期表示されます。 ・ヘッダ部で受注Noを指定しなくても明細の受注No、受注行Noを設定できます。 ・受注No、行Noを設定しておく受注No別原価表にて受注仕入対比が表示され受注Noまたは受注行Noごとの仕入原価を把握することができます。 ・受注Noとひもづけたくない場合は受注NoでDeleteキーを押下すると消すことができます。
セット、 構成数 (仕入入力 は無し)	<p>セット品を指定すると、完成品行のセットに「セット」と表示されます。</p> <p>構成数はセット品を構成する行(伝区が「構成」)のみ入力できます。 構成数を変更すると、「構成数×完成品の数量」が構成品の数量にセットされます。 構成数にはセット品登録で登録した構成数が初期表示されますが、変更可能です。 ただし、返却が発生したあとは変更できません。</p>
期間 (仕入入力 は無し)	<p>構成品を除くレンタル明細の場合に、各明細ごとに採用している期間名が表示されます。 期間は、各商品ごとに採用される期間掛率マスタの期間と、基本情報で指定した開始日～終了日で計算された期間で条件一致する期間名が表示されます。 (基本情報の期間名ではなく、期間掛率マスタで設定されている期間名です) 単価情報画面を表示して期間を変更すると、表示される期間も変更となります。 期間名は明細ごとに記憶され、伝票類に印字することもできます。</p>

項目名称	説明
税区分	<p>明細毎に税区分を指定できます。リストより選択します。 商品マスタの設定値が初期表示されます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リストに選択したい税区分がない場合、「システム管理」-「消費税率登録」より税区分を登録できます。
マーク	<p>マークをマウスでクリックし、チェック状態にすることで明細行にマーク(印)をつけて、明細表出力時に絞り込みができます。</p>
検品済 (仕入力は無し)	<p>ハンディ連携オプション利用時のみ表示されます。</p> <p>検品対象の行のみ使用可能です。 値引行、返品行、セット品(完成品)行は使用できません。 返却が発生したあとは変更できません。</p> <p>ハンディにて出荷検品を行うと自動的にチェックがONになりますが、売上入力画面でも変更ができます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用可能な全ての明細行の検品済をチェックONにすると、伝票(基本情報)の出荷検品が「済」表示になります。
最終返却日 返却済数量	<p>種別=レンタルの場合、当該明細行の返却データがあればその明細行の最終返却日と、返却済み数量を表示します。</p>

6) 明細情報(計行) 項目の説明

※売上、仕入ともに内容はほぼ同じです。以下、売上入力を例に説明します。

明細部の下に横並びに表示されている箇所を、計行と呼びます。

計行では伝票時外税の得意先の外税額のみ手入力できます。

その他入力できる項目はありません。明細部の情報を集計して、その結果を表示します。

項目名称	説明
レンタル計 販売計 その他計	入力中の伝票の商品種別ごとの入力金額が表示されます。
粗利益率	伝票全体の 粗利益＝売上金額計－売上原価計、率＝(粗利益／売上金額計)×100 で計算され表示されます。 Point ・粗利益及び率には現在明細行に入力中の金額も反映されます。 ・率の少数点以下は四捨五入となります。
金額計	伝票全体の売上金額合計が表示されます。
税額	伝票毎外税の得意先の場合、「外税額」と表示され、伝票全体の消費税額が 計算され表示されます。表示されている消費税額を手入力で修正することも可能です。 Point 例) 100円の商品を受注し、外税が5円だった伝票の税額を、4円に修正して 登録した場合、売上明細表には以下のように印字されます。 変更前・・・行1 ○○商品 売上金額 105円 ⇒ 税込出力で105円と表示 変更前・・・行1 ○○商品 売上金額 105円 行256 消費税 売上金額 -1円 ⇒ 行No256の消費税伝票が自動で作成され、修正差額分を 売上金額にセットして、端数調整する。 伝票毎内税の得意先の場合、「内税額」と表示され、伝票全体の消費税額が 計算され表示されます。消費税額の訂正はできません。 請求時外税の得意先の場合、税額の欄は表示されません。 伝票毎外税は以下の通りです。 伝票毎外税・・・明細行毎に消費税を計算(調整税)しますが伝票税は伝票の 合計金額で算出します。
合計金額	金額計＋税額 の値が表示されます。

7) 売上傳票更新におけるその他注意事項

新規

- ・分納の売上を入力した場合、新規登録にて受注No指定し、1回目納品の売上傳票を登録します。
2回目の納品の際も、新規登録にて同じ受注Noを指定すると、自動で、受注残の明細行のみが表示されます。

修正

- ・修正で伝票を開いた場合、どの項目も修正していないと伝票登録はできません。
- ・伝票を修正登録した場合、発行済みだった納品書は未発行状態に戻ります。
(納品書の即時印刷機能が有効の場合、再度即時印刷できます)
- ・全数出荷(リレー売上)済みの受注Noは売上で新規登録できません。
しかし、伝票入力画面で確認は可能です。確認後、複写ボタンにて伝票複写も可能です。
- ・売上の伝票機能にて「請求時一括消費税伝票の修正削除あり」が有効の場合、請求時一括消費税の得意先に関しては、請求締切処理で自動で作成される消費税伝票を修正で呼出し、金額を訂正することができます。

消費税伝票は以下の計算で作成されます。

- 例) 未締めめの得意先で、6月末指定で請求締切処理をおこなった場合。
 6月1日～6月末までの売上合計(税抜) × 0.05 ⇒ A
 6月1日～6月末までの明細行ごとの消費税合計 ⇒ B
 消費税伝票の額 = A - B

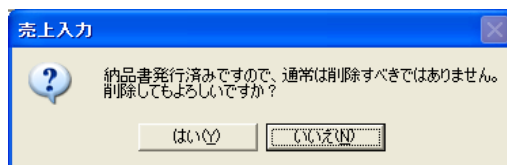
※消費税伝票は計算結果が0円でも作成されます。

請求締切の詳細は「【6】-14請求締切処理、請求一覧、請求書」参照

- ・得意先の使用区分を「売上停止」「使用しない」に設定している場合は更新ロックがかかり、更新できません。

削除

- ・納品書類(どれか1つでも)出力後に、対象伝票を削除しようとするると以下の警告メッセージが出力されます。「はい」押下にてそのまま削除することも可能です。

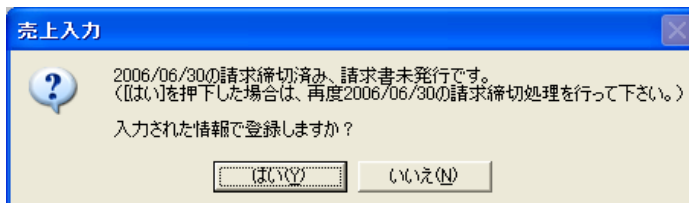


納品書発行済みかどうかは、納品書類のプレビューを表示または印刷したかどうかで判定しています。(即時印刷実行も発行済みとなります)

- ・得意先の使用区分を「売上停止」「使用しない」に設定している場合は更新ロックがかかり、削除できません。

新規、修正、削除 共通

- ・ある得意先の請求締切後に、その得意先に対して、締切済み期間内の伝票を新規追加、修正、削除しようとした場合、以下のような警告メッセージが表示されます。
運用設定の請求済許可が「しない」の場合は、伝票登録できません。
どうしても登録したい場合は、請求済許可を「する」に変更してから伝票登録してください。
許可している場合は、「はい」押下にて伝票登録できます。
伝票登録後は対象の得意先に対して請求締切処理と請求一覧表出力を再実行することをおすすめします。



また、請求書発行済みかどうかは、請求締切処理後、合計請求書のプレビューを表示またはプレビューなしで直接印刷したかどうかで判定しています。

- ・仕訳連動オプションを導入している場合、仕訳作成済の伝票に関しても上記の請求済許可と同様に警告メッセージが表示されます。
運用設定で許可しない設定にしている場合は、仕訳作成済の伝票の修正、削除はできません。

8) 予定在庫一覧

- ・新規または修正で伝票登録後に予定在庫一覧が表示されます。
もしくは、倉庫欄、数量欄でF2キー押下すると表示されます。
- ・在庫数には関係ないため、表示される明細は値引・経費・摘要を除きます。
- ・伝票登録後の場合は、対象となる全行の商品が表示されます。
ただし、運用設定の「予定在庫をチェックする」が「しない」の設定の場合は表示されません。
また、入力していた数量も含めた結果の予定在庫で表示されます。
- ・倉庫、数量欄でF2キー押下して表示した場合は、該当行の商品のみ表示します。
入力していた数量は予定在庫数には含まれません。
商品がセット品の完成品または構成部品だった場合、同一セット内の商品すべて表示されます。
- ・返却日指定なしだった場合は1週間先までで表示されます。

商品コード	品名	管理番号	倉庫略名	構成数	開始数	2017年07月							
						22	23	24	25	26	27	28	29
0903051	[セ]コンパクトアンプセット 500W	STAGEPAS500・アンプ・ステレオ式	本社倉庫	1	10	5	5	5	5	5	5	5	5
↳0903001	[構]コンパクトアンプ 500W	STAGEPAS500	本社倉庫	1	20	5	5	5	5	5	5	5	5
↳0903501	[構]パッシブスピーカー スタンド付		本社倉庫	2	10	20	20	20	20	20	20	20	20
0212502	コルク玉 100個入り		本社倉庫	1	30	10	10	10	10	10	10	10	10
						0	0	0	0	0	0	0	0
						30	30	30	30	30	30	30	30

表示後、検索条件を変更して再検索することも可能です。
画面の上段は貸出数、下段は営業在庫数(予定在庫数)で表示されます
一覧の様子は「日別在庫一覧」と同様ですので、日別在庫一覧のマニュアルをご確認ください。

9) 与信チェック

売上入力では、運用設定の設定により伝票更新時に与信チェックが行われます。
与信チェックの詳細については、受注入力のマニュアルを御覧ください。